



第26回日本レーザー医学会総会

会長：東京医科大学・外科第一 加藤治文 教授

この学会では第16回国際レーザー医学会議 (ISLSM)、第1回世界レーザー医学連合会 (WFSLMS)、YAGシンポジウムをも同時開催しました。レーザー関連学会が一同に会したことは前例がありませんでしたので世界からの著名なお客様をいかにもてなすか悩みました。我が国のみならず世界から多くの参加者が集い、活発な学術集会になりました。本学会のテーマは「レーザー光の可能性 -今、日本から発信できること-」としました。本学会はこの年からNPO法人に改組され、レーザー専門医制度が発足しましたのでそれにふさわしい学術集会にすべくプログラムは、特別講演(渥美和彦)、会長講演(加藤治文)、Plenary (I Kaplan, L Longo, K Rau, Y Asagai, CK Rhee, M Kawatani, H Pass, JH Li, J Kubota)、教育シンポジウム (C Gomer, M Kikuchi, S Bown, Y Kataoka, T Okunaka)、Round Table Discussion (A Baruchin, N Nimusakul, L Longo)、国際シンポジウムでは「消化器PDTの進歩」、「Neuropathic pain」、「PDT Special Symposium」、「Laser in Dentistry」、「ENT」、「Macular Degeneration」、「Ophthalmology」、「Korea-Japan」、「ALA PDD PDT」、「Dermatology」、「LLLT」、国内シンポジウムでは「基礎レーザー光の未知の可能性」と「臨床 QOLの向上を目指して」のテーマに15発表が、そして32の一般演題と多くのPoster展示が行われました。学会中の熱心な討議の疲れを懇親会で癒していただきました。本学会では海外からの知見を学び、我が国における高度なレーザー医療技術を示し、研究と臨床の数々の先進技術が海外へ発信できた。

(加藤教授の原文そのまま)



